

研究課題番号	5-2005
研究課題名	播磨灘を例とした瀬戸内海の栄養塩管理のための物理―底質―低次生態系モデルの開発
研究実施期間	2020 年度～2022 年度
研究機関名	愛媛大学
研究代表者名	森本 昭彦

1. 委員の指摘及び提言概要

播磨灘を例とした瀬戸内海の栄養塩管理のための物理―底質―低次生態系モデルの開発が行われ、環境行政への反映が期待される。外洋・底泥・陸域河川からの栄養塩の寄与をモデル解析から示した点は評価できる。また、大阪湾に流入する武庫川、淀川、大和川からの栄養塩負荷を調整するのが播磨灘の栄養塩管理に効率的であるとの所見は、モデルによる見える化による成果だと思われる。一方、底質の溶出を実測しているのは播磨灘の一地域であり、これを瀬戸内海全体の議論に広げるには限界がある。今後、陸域の負荷量研究者と連携して総合的なモデルの再評価を行っていくことが望まれる。また、今後は栄養塩の変化と水産資源の増減の関係を明らかにして欲しい。

2. 採点結果

評価ランク：A